**「グローバルスケールとメソスケールを貫く気象学」研究集会**

【日時】　12月28日（月） 09:40 ～18:00

【場所】北海道大学理学５号館２０１室

講演時間２０分から２５分、質疑応答５分から１０分を目安とし、全体で３０分で終えるようにしてください。

12月28日（月）

【座長】篠田太郎（名大宇地研）

09:40～09:45 趣旨説明：稲津　將（北大院理）

09:45～10:15 堀之内武\*（北大院地球環境）

 夏季の大陸東岸から洋上にかけての降水帯の最小構成概念モデル：気候学的理

 解から日々の降水帯の構造まで

10:15～10:45 西井和晃\*（東大先端科学技術）・中村尚（東大先端科学技術）

 梅雨期と秋雨期の移動性低気圧の比較

10:45～11:15 本田明治\*（新潟大理）・山崎　哲・吉田　聡（JAMSTEC）・岩本勉之

 （紋別市）

 2014年2月14日～15日の関東甲信地方に記録的大雪をもたらした総観場・

 大気循環場の特徴

11:15～11:45 岡田靖子\*（京大防災研）・竹見哲也・石川裕彦（京大防災研）・

　　　　　　　　楠昌司・水田亮（気象研）

 地球温暖化に伴う梅雨の降水活動と大気条件の変化

11:45～13:15 昼食

【座長】稲津　將（北大院理）

13:15～13:45 末松　環\*・三浦裕亮（東大院理）

 Fast and slow Madden-Julian Oscillation and their reproducibility on NICAM-AMIP

 simulation

13:45～14:15 吉田敏哉\*（京大院理）・竹見哲也（京大防災研）

 都市域における大気境界層内の乱流構造に対する解析

14:15～14:45 玉置雄大\*・稲津　將・中野直人（北大院理）・久野龍介

 (ARK情報システム)

 夏季北海道におけるサンプリングダウンスケーリング

14:45～15:15 山田広幸\*（琉球大理）・那須野智江（JAMSTEC）

 台風Fengshen(2008)の発生期に存在した渦状擾乱の鉛直構造と振る舞い

15:15～15:30 休憩

【座長】岡田　靖子（京大防災研）

15:30～16:00 稲津　將\*・勝部弘太郎（北大院理）

 海面水温が台風経路に及ぼす影響

16:00～16:30 加藤雅也（名大宇地研）・相木秀則（JAMSTEC）・吉岡真由美・

 坪木和久（名大宇地研）

 CReSS-NHOES を用いた伊勢湾台風の大気海洋結合実験

16:30～17:00 渡邉俊一\*・新野宏（東大大気海洋研）

 冬季北海道西方日本海上のメソスケール渦状擾乱の一般的特性と環境場

17:00～17:30 篠田太郎\*・加藤雅也（名大宇地研）・猪上　淳（極地研・JAMSTEC）・

 坪木和久（名大宇地研）

 雲解像モデルCReSSを用いた北極海低気圧の再現実験

17:30～18:00 総合討論

18：00 終了

18：30 懇親会